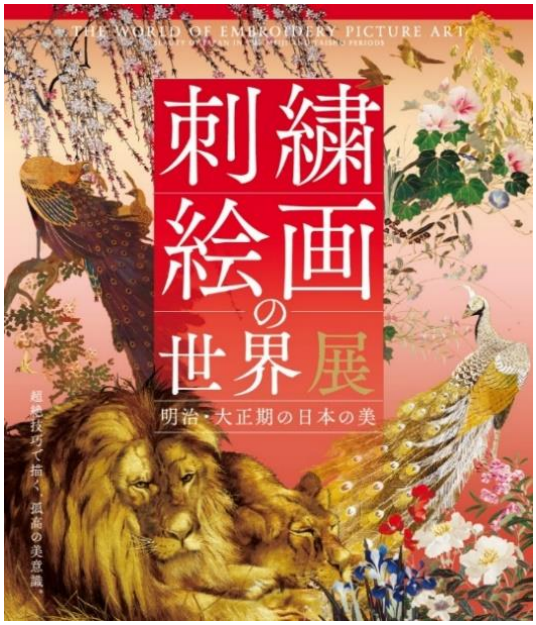
News Release　Takashimaya

2022年6月

刺繍絵画の世界展

明治・大正期の日本の美



会　　期 ： 2022年8月24日(水) → 9月12日(月)
会　　場 ： 日本橋髙島屋S.C.本館8階ホール
入場時間 ： 10時30分～19時(19時30分閉場)
※最終日は17時30分まで(18時閉場)
入 場 料 ： 一般 1,000円(800円)、
大学・高校生 800円(600円)、中学生以下無料※
主　　催 ： NHKサービスセンター
監　　修 ： 京都女子大学 名誉教授 廣田 孝氏
企画協力 ： 髙島屋史料館
協　　力 ： 清水三年坂美術館、株式会社千總、
有限会社青木刺繍
巡回予定 ： 京都髙島屋7階グランドホール
2022年9月15日(木)→26日(月)

※入場料の( )内は前売り料金。前売券はセブンチケット、ローソンチケットにて6月15日から8月23日 (火)まで販売。
※「障がい者手帳・デジタル障がい者手帳」をご提示いただいたご本人様、ならびに、ご同伴者1名様まで入場無料。

明治期を中心に、日本を代表する美術工芸品として盛んに制作された刺繍絵画。技巧の限りが尽くされた作品群は、日本刺繍の最高峰とも評されています。
こうした「刺繍絵画」は明治期に盛んに制作され、海外の邸宅を彩る室内装飾品として輸出されました。当時、近代化を急ぐ日本では、文化国家であることを海外にアピールする目的や、外貨獲得により日本を豊かにしようという政策のもと、多くの美術工芸品が海外へ輸出されました。
そのひとつでもある「刺繍絵画」は、当時、各国で盛んに開催されていた万国博覧会に出品され、世界の人々の賞賛を受ける結果となり、作品の多くが海外に渡ることとなりました。そして、現在もほとんどの作品が海外に流出したままです。
当時、「刺繍絵画」の製作は髙島屋の三代、四代飯田新七と、現在、京友禅の老舗として知られる千總の十二代西村總左衛門などが主に担っていました。『刺繍絵画の世界展　明治・大正の日本の美』では、これら刺繍絵画の作品群のほか、髙島屋が1900年パリ万博などに出品した染織作品の下絵など、貴重な資料を一堂に展覧。絢爛で優美な刺繍絵画の世界を堪能いただけます。

刺繍絵画とは

日本画家が描いた下絵をもとに、刺繍職人が針と糸で縫い上げた絵画を、壁掛や衝立などに仕立て製品としました。明治・大正期に盛んに制作され、海外の邸宅を彩る室内装飾品として輸出された、日本が世界に誇る美術工芸品のひとつです。職人が、わずか1㎝ほどの直線を一針一針、緻密に縫い上げることを繰り返しながら、自在に曲線を描き、染め分けた絹糸の色の濃淡のみで立体感を表現、完成には長い月日がかかったであろうと言われています。

展示作品一例

刺繍絵画 ≪獅子図≫（明治～大正時代）
高島屋史料館蔵

下絵 ≪獅子図≫（明治～大正時代）
日本画家・松坂松濤　高島屋史料館蔵

刺繍絵画≪獅子図≫は、高島屋で染織品の下絵制作を手掛けていた、画家・図案家として名高い神坂雪佳の弟で、日本画家の神坂松濤が描いた≪獅子図≫が下絵となっています。
高島屋の輸出品の記録写真集（写真右、高島屋史料館蔵）には複数の獅子図の製品が確認でき、当時、この獅子は大変好まれたモチーフであったことが伺えます。
創業190周年を迎えた昨年、高島屋が明治から大正にかけて欧米に向け輸出した刺繍絵画≪獅子図≫が里帰りし、100年以上の時を超え、日本橋、大阪、京都で下絵≪獅子図≫と共に展示されました。

刺繍絵画 ≪桜に鳩図掛布≫（大正～昭和時代）
清水三年坂美術館蔵

刺繍絵画 ≪紫陽花と百合花図≫（大正時代）
髙島屋史料館蔵

刺繍絵画 ≪波≫（明治～大正時代）
髙島屋史料館蔵

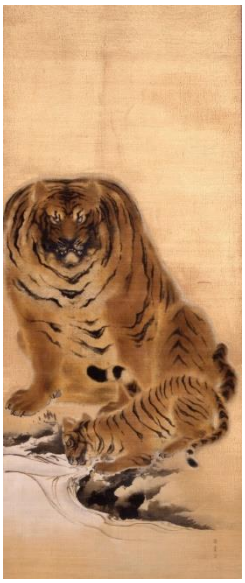
刺繍絵画 ≪松に孔雀図≫（明治～大正時代）
西念寺蔵

刺繍絵画 ≪紅葉渓図≫（明治時代）
髙島屋史料館蔵

刺繍絵画 ≪金地草花文屏風≫（大正初期）
髙島屋史料館蔵

両面衝立（写真左）ビロード友禅≪富士に松図衝立≫、（写真右）刺繍絵画≪水辺に水禽図衝立≫（明治時代）
株式会社千總蔵

ビロード友禅下絵 竹内栖鳳
≪ベニスの月≫（明治時代）
髙島屋史料館蔵



ビロード友禅（下絵：岸竹堂、友禅：村上嘉兵衛）
≪金地虎の図≫（明治時代）
髙島屋史料館蔵